

## Youth Forum Handout

### 「非伝統的安全保障としての危機管理」用語集

以下は、今回のユースフォーラムでの報告「非伝統的安全保障としての危機管理」で出てくる言葉です。当日はあまりゆっくりと説明ができないため、事前に目を通しておいて下さい。

#### <危機管理の4段階>

危機管理（災害を正しく把握し、適切に対処すること）には、次に挙げる4つの段階があります。

##### ①減災

災害が発生したとしても、その災害による被害をできるだけ小さくするための活動。

家庭での例：家の耐震補強や家具の固定、保険加入など。

行政機関での例：建物の耐震補強など。

##### ②防災

災害が発生することを前提に、災害が発生した場合の対応に必要な準備をあらかじめ行うこと。

家庭での例：災害時の家族の避難先を事前に決めておく、非常用持ち出し袋の用意など。

行政機関での例：防災計画の作成、訓練の実施など。

##### ③対応

災害が発生した際に、事前の計画や訓練等に従って、その被害を最小限にし、更なる被害の発生を防ぐために行う活動のこと。

家庭での例：避難の実施、近所での助け合いなど

行政機関での例：避難所の開設、災害の被害者（被災者）の救助など。

##### ④復旧・復興

災害発生後に、被害をできるだけ早く回復させ、次に同じような災害が発生したとしても、災害に強い地域にしていくこと。

家庭での例：自宅の再建、地域の復興まちづくりへの参加など。

行政機関での例：ライフライン（電気・ガス・水道）の修理、復興計画の作成と実施等。

#### <人道支援や災害救援>

現在の軍隊の大きな役割の一つに人道支援（Humanitarian Assistance）や災害救援（Disaster relief）があります。

##### ①人道支援（Humanitarian Assistance）

戦争や災害その他の事情で生命や人権が大きな危険に晒されている人々を非軍事的な手段で直接支援すること。

##### ②災害救援（Disaster relief）

特に大災害が起きた際に軍隊によって実施される被災者の救助や救援。

Youth Forum Workshop Related Materials

<h3 style="text-align: center;">ワークショップテーマ</h3> <p><b>* 課題</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割を非伝統的安全保障という観点で考え、</li> <li>沖縄の役割とそれに関わるキーワードを3つ挙げてください</li> </ol> <p><b>* 注意</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>観光と危機管理だけに縛られる必要はありません。</li> <li>新垣先生のお話も参考に、皆さんが考える「非伝統的安全保障」の中に含まれると思う分野から自由に考えてみてください。</li> </ol>	<h3 style="text-align: center;">ワークショップの進め方</h3> <ol style="list-style-type: none"> <li>ワークショップの説明(5分)</li> <li>自己紹介とリーダー決め(5分) ➢各自の自己紹介と進行役になるリーダーを決めましょう。</li> <li>アイデア出し(10分)             <ol style="list-style-type: none"> <li>みんなで色々なアイデアを出しましょう。</li> <li>できるだけたくさんアイデアを集めるために、お互いの発言を否定せず、机の上のスケッチブックなどに書き出していきましょう。</li> </ol> </li> <li>アイデアの検討とまとめ(15分) ➢集めたアイデアをグループにまとめてみたり、足したり、引いたりしながら具体的な形にしていきましょう。</li> <li>リーダーによる発表(10分)</li> </ol>
--	--

Youth Forum Workshop: Deliverables from each group

<p style="text-align: center;">「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！</p> <p style="text-align: center;">グループ( <b>A</b> )</p> <p><b>* 沖縄の役割</b> 東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、 <b>東アジアの見本になれる島</b></p> <p><b>* 3つのキーワードとその内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>「相互理解」:</b> 交換留学制度 etc... お互いの文化を理解することにより、世界に発信することができる</li> <li><b>「経済活動」:</b> 地理環境・人のつながり これをアピールすることで" ビジネスチャンスと呼びこむ。</li> <li><b>「文化活動」:</b> エイサー・カチャシー 沖縄の伝統行事を 世界に広める。</li> </ol> <p style="font-size: small;">万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日</p>	<p style="text-align: center;">「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！</p> <p style="text-align: center;">グループ( <b>B</b> )</p> <p><b>* 沖縄の役割</b> 東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、 <b>国際交流ネットワークを構築する!</b></p> <p><b>* 3つのキーワードとその内容</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li><b>「文化」:</b> 沖縄のチャンプルー文化</li> <li><b>「国際人材」:</b> 国と国をつなぐ"人材の育成</li> <li><b>「国際物流」:</b> アジアの観光と物流の拠点の形成</li> </ol> <p style="font-size: small;">万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日</p>
---	---

「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！

グループ( C )

\* 沖縄の役割  
東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、  
**日本本土とアジアを結ぶ中継地点**

\* 3つのキーワードとその内容

1. 「自然災害」:
2. 「教育」:
3. 「感染症」:

万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日

「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！

グループ( D )

\* 沖縄の役割  
東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、  
**日本と外国との中継ぎとなる**

\* 3つのキーワードとその内容

1. 「文化交流」: 多様な文化が混ざった沖縄が持つ異文化理解の精神の伝達
2. 「環境・地理」: 沖縄の環境・地理を生かした観光業を発展させることで外国との交流を強める
3. 「平和教育」: 地上戦のあった沖縄の歴史を踏えて戦争の現状を伝えてゆく

万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日

「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！

グループ( E )

\* 沖縄の役割  
東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、  
**東アジアの架け橋**

\* 3つのキーワードとその内容

1. 「伝統」: 全島エイサーまつりに外国人をよぶ!!
2. 「平和」: 東アジア平和会議の開催  
IN Okinawa
3. 「経済」: 地理優位を活かした貿易

万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日

「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！

グループ( F )

\* 沖縄の役割  
東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、  
**アジアの架け橋**

\* 3つのキーワードとその内容

1. 「教育」: 正しい教育
2. 「交流」: 国と国の交流
3. 「観光」: 沖縄の良いところを知ってもらい好きになってもらう

万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日

「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！

グループ( G )

\* 沖縄の役割  
東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、  
**日本と世界の文化的な接点**

\* 3つのキーワードとその内容

1. 「**留学**」: 沖縄からも留学生を世界に派遣し、アジアを中心に世界からも学生を受け入れる。
2. 「**語学**」: 世界から人々を受け入れるために、語学力をつける。留学生受け入れをそのきっかけとする。
3. 「**伝統文化**」: 沖縄の伝統文化を発信し、日本や他国の伝統文化を受け入れる。留学生をその橋渡し役とする。

万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日

「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！

グループ( H )

\* 沖縄の役割  
東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、  
**東アジアの拠点、とみる島になる。**

\* 3つのキーワードとその内容

1. 「**人材**」: 外国語、外交、かきこぼし
2. 「**食**」: コミュニケーション
3. 「**人のハブ**」: 平和研究の集う島

万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日

「非伝統的安全保障」の観点で、考えてみる！！

グループ( I )

\* 沖縄の役割  
東アジアの平和と安定に果たす沖縄の役割は、  
**万国津梁の拠点**

\* 3つのキーワードとその内容

1. 「**平和の文化伝統**」: 沖縄は、平和に対する高い意識を外に発信してきた。
2. 「**世界をつらぬく教育**」: 3世にわたって継承した沖縄の教育は、平和を愛する心を育てるものである。また、英語教育をはじめ多文化が深み、国際化環境へとつながる。
3. 「**ユイハル精神**」: 留めておいてくれる、2008年の精神を大事にしている沖縄の人々の情しさを、世界的な便利さを利便して災害の時等、2011、コソボの賑わった。

万国津梁フォーラム ユースフォーラム ワークショップ 2014年7月17日

Okinawa Asia-Pacific Partnership Forum  
“Creating Perspectives on Security with Regional Partners”  
Forum Poster

# 万国津梁フォーラム

Okinawa Asia-Pacific Partnership Forum

～地域と共に創造する安全保障観～

Creating Perspectives on Security with Regional Partners

**開催日時** 2014年7月17日(木)

**会場** ANAクラウンプラザ沖縄ハーバービュー  
※駐車スペースに限りがございますので、できる限り公共交通機関をご利用下さい。

**【参加費】無料 【主催】沖縄県 【後援】沖縄県教育委員会**

- ユースフォーラム  
10:00～12:00 白鳳の間  
※高校生、大学生等若い世代を主な対象とさせていただきます。
- ①防衛研究所地域研究部 米欧ロシア研究室  
主任研究官 新垣 拓
  - ②日本旅行業協会  
沖縄支部長 東 良和
  - ③沖縄県 知事公室地域安全政策課  
主任研究員 中林 啓修
  - ④ワークショップ

「レポートコンテスト」の開催について  
万国津梁フォーラムに関する感想や、議論されたテーマ  
に対する提言を、若い世代から募集します。  
詳しくは、下記アドレスをご覧ください。  
[http://okinawa-institute.com/forum\\_bst/2014/forum01/repo/](http://okinawa-institute.com/forum_bst/2014/forum01/repo/)

- メインフォーラム(日英同時通訳)  
14:00～17:30 彩海の間
- セッション①地域からみた米軍基地  
～基地所在自治体からの事例発表～
- ・神奈川県副知事 黒川 雅夫
  - ・佐世保市長 朝長 剛男
  - ・三沢市副市長 米田 光一郎
  - ・岩国市政策審議官 村田 光洋
- セッション②総合的安全保障  
～東アジアの現状と沖縄の役割～
- ・東京大学大学院教授 高原 明生
  - ・北京大学国際関係学院准教授 于 鉄軍
  - ・ソウル大学国際大学院教授 朴 喆熙
  - ・淡江大学米国研究所教授 薩 一新
  - ・ジョージワシントン大学教授 マイク・モチヅキ
- セッション③パネルディスカッション

【展示物の貸】 出展：沖縄県立博物館・美術館

申込先：万国津梁フォーラム事務局（オフィス アイシーシー）  
電話 098-943-5370 FAX 098-943-5371 メール okiforum2014@aroma.ocn.ne.jp  
申込方法：7月2日(水)までに上記メールまたはFAX宛にお申し込み下さい。  
インターネットによるライブ中継も予定しております。  
予告なしに登壇者や内容に変更がある場合がございます。



Main Forum: Display Materials from Okinawa Prefecture

## 万国津梁の鐘とフォーラムの名称由来 Origin of the name of the Bankoku Shinryo Bell and the Forum

フォーラムの名称ともなっている「万国津梁」とは、万国の架け橋の意味で、「万国津梁の鐘」に由来している。

「万国津梁の鐘」は、1458年、尚泰久王の命令で鑄造され、首里城正殿の前に掛けられていた。

鐘銘には、琉球王国がアジアを結ぶ架け橋として盛んに往来し交易した時代の気概が表れている。



“Bankoku Shinryo”, the name of the Forum in Japanese, which means “bridge between nations”, and it comes from the Bankoku-Shinryo Bell.

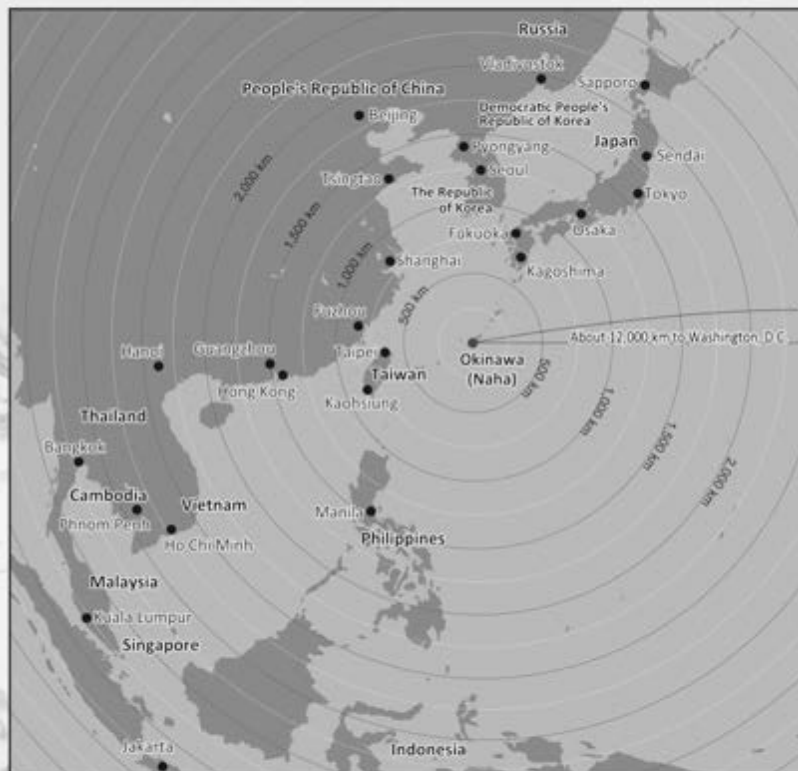
The Bankoku-Shinryo Bell was cast and hung in front of the main hall of Shuri Castle in 1458 on the orders of King Sho Taikyu. The inscription reflects the spirit of an age when the Kingdom of Ryukyu flourished as the crossroads of Asian trade.

## Location of Okinawa Prefecture and Trade Routes in the Ryukyu Kingdom Period

Okinawa Prefecture is located east of the Asian continent, forming an arc off the southwestern tip of the Japanese archipelago. It's a prefecture of 160 large and small islands spread over a large area of ocean, 1,000 km east to west and 400 km north to south.

It's about 650 km from Okinawa (Naha) to Kagoshima and Taipei, about 900 km to Fukuoka, Shanghai, and Fuzhou, and about 1,250 km to Osaka and Seoul.

It's about 1,550 km to Tokyo, but closer overseas cities include Hong Kong and Manila.



Naha port is a node in the network linking Korea, Japan, and China with Southeast Asia. The presence of people of Chinese descent was important for the network linking China, Ryukyu and the various parts of Southeast Asia. Ryukyu and Korea conducted trade based on the loose ties of two tributaries of the Ming.

Ryukyu also traded with Japan, sending envoys to the Muromachi Shogunate until the mid-15th century when Japan was overtaken by the confusion of the Warring States Period. In addition, Ryukyu developed good trade relations through the network of people of Chinese descent, which linked the local governments in the various parts of Southeast Asia. This is another reason why Naha port became a venue for the active movement of people and goods. The age of trade in the Ryukyus was based on these international relationships. Reference: Okinawa Prefectural Board of Education: *Overview of Okinawan History and Culture*

# Timeline of Ryukyu/ Okinawa History

Period	Year	Matters related to Ryukyu/ Okinawa	Japan	China	
Prehistoric Period	Paleolithic Period	BC 30000		Paleolithic Period	
		BC 16000	Yamashitacho Daiichi Cave Minatogawa Fisher Remains		
	Jomon Period	BC 4700	Noguni Shell Mound, Toguchi Agaribaru Remains		Neolithic Period
		BC 3000	Gushikawajima Site, Kogachibaru Shell Mound		
		BC 2000	Iha Shell Mound, Ogido Shell Mound		
		BC 1000	Uzahama Site, Nakabaru Site		
	Yayoi to Heian Period	BC 300	Momenbaru Site, Azamabaru Site		Yin
		607	Emperor Yang of Sui dispatched Zhu-Kuan to Ryukyu	Asuka Period	Sui
		616	Yaku Island people casted ashore in Yamato (Japan Mainland)		
	Old Ryukyu	707	Given the Court Rank of Southern Islander	Nara Period	Tang
714		Amami, Shinkaku, and Kumi islanders visited Yamato			
753		Ganjin was drifted down to on Akonaha (Okinawa) Island	Heian Period		
Gusuku Period		1187	Said to be crowned as Shunten		5-Dynasties and 10 Kingdom Period
		1261	Built a tomb on Gokurakuyama (Urasoe Yodore)		Song (Baisong)
		1264	Paid tribute to Kume, Kerama, Iheya and Chuzan	Kamakura Period	Jin Nansong
Second Sho Dynasty		1314	From this time, Chuzan, Nanzan and Hokuzan were said to be in conflict		Yuan
		1372	King Satto of Chuzan first paid tribute to the Ming		
		1380	King Ufusato of Nanzan first paid tribute to the Ming		
		1383	King Haneji of Hokuzan first paid tribute to the Ming		
	1392	It is said that 36 people from Bin visited Okinawa at this time The first students of government were sent to China	Muromachi Period		
	1404	The first visit of Sakuhoishi Jichu	1338 Ashikaga Takauji initiated the Muromachi Shogunate		
	1416	Sho Hashi overthrew Hokuzan	1392 Union of North and South Dynasties		
	1422	Sho Hashi crowned ruler of Chuzan	1397 A. Yoshimitsu built the Kinkakuji		
	1429	Sho Hashi overthrew the king of Nanzan and united the three kingdoms	1401 A. Yoshimitsu began trade with the Ming		
	1458	The Bankoku-Shinryo bell was hung in front of Shuri Castle main hall	1404 Licensed Trade started		
Early Modern Ryukyu Period	1469	Port authority moved from Quanzhou to Fuzhou and the Juen-eki (Ryukyukan) was established	1428 Shocho Uprising was broken out		
	1474	Payment of tribute restricted to once every two years	1467 Onin War was broken out		
	1487	Koso of the Ming conferred an Imperial letter on King Sho Shin of Chuzan in the Ryukyu Kingdom	1489 A. Yoshimasa built Ginkakuji		
	1500	The Oyakeakahachi Disturbance was put down	1543 Portuguese introduced firearms	Ming	
	1509	Class System was established marked by headbands and hairpins	1573 Fall of Muromachi Shogunate		
	1531	First volume of "Omorososhi" compiled	Azuchi-Momoyama Period		
	1605	Noguni Soukan introduced the sweet potato from Fuzhou	1603 Tokugawa Ieyasu initiated Edo Shogunate		
	1609	Invasion of the Ryukyu by the Satsuma	1615 Toyotomi was defeated in Osaka Summer Campaign		
	1611	Establishment of the 15 rules by the Satsuma	1635 Shimabara Rebellion		
	1612	Payment of tribute once every 10 years	1651 Keian Uprising		
Modern Okinawa	1622	Payment of tribute once every 5 years	1637 Shimabara Rebellion		
	1623	Gima Shinjo manufactured the first brown sugar	1651 Keian Uprising		
	1633	Payment of tribute restored to once every two years	1716 Kyoho Reforms		
	1634	The start of Ryukyuan Missions to Edo	1732 Kyoho Famine		
	1637	Miyako and Yaeyama established a poll tax	1787 Kansei Reforms		
	1650	"Mirror of the Ages of Chuzan" was compiled	1833 Tenpo Famine		
	1671	Hirata Tensu visited the Qing to study ceramics	1828 Siebold Incident		
	1682	Integration of kilns into Tsuboya	1853 Perry visited		
	1708	Teijunsoku brought "Rikuyueki" from China	1854 Perry concluded the Convention of Kanagawa		
	1719	Sakuhoishi, Kai Ho and Jo Hoko visited Ryukyu. Kumi odori first staged	1859 Ansei Purge		
Current Okinawa	1771	Meiwa Tsunami (Large tsunami hit Miyako and Yaeyama)	1867 Restoration of Political Power to Emperor		
	1846	The missionary Bettelheim visited Ryukyu	1869 Capital was moved to Tokyo		
	1853	Perry sailed to Naha	1871 Abolition of Domains and Establishment of Prefectures	Qing	
	1854	Conclusion of a Treaty of Amity between Ryukyu and America	1877 Satsuma Rebellion was broken out		
	1866	Last Sakuhoishi, Choshin visited to Ryukyu	1889 Constitution of Empire of Japan was promulgated		
	1871	Taiwan Shipwreck Incident (54 Miyako islanders were murdered)	1894 The Sino-Japanese War		
	1877	Meiji Government put Ryukyu under the jurisdiction of Kagoshima Prefecture	1904 The Russo-Japanese War		
	1877	Established the Ryukyuan Domain	1906 Joseki Natsume published "Botchan"		
	1877	Diplomatic Controversy between Japan and Qing concerning return of Ryukyu	Taisho Period		
	1879	Sho Tai relinquished Shuri Castle, abolished Ryukyu Domain and established Okinawa Prefecture	1914 World War I		
Okinawa Prefecture	1892	Movement to abolish the Miyako poll tax	1929 Global Depression	Republic of China	
	1899	27 people emigrated to Hawaii as the First Emigration to Hawaii from Okinawa	1931 Manchurian Incident		
	1903	Land Readjustment Project was ended	1932 May 15 Incident		
	1909	Miyako and Yaeyama abolished the poll tax	1936 February 26 Incident		
	1912	Enactment of the Prefectural System (special case)	1937 Marco Polo Bridge Incident		
	1919	Enactment of the House of Representatives Election Law (two, excl. Miyako and Yaeyama)	1939 World War II started		
	1924	Intensified Depression following WWI (Cycad Hell)	1941 Pacific War		
	1944	October 10 Air Raid on Naha	1945 End of the war		
	1945	U.S. military landed on Okinawa and the Battle of Okinawa began	1950 Korean War		
	1950	Establishment of U.S. Administration	1951 San Francisco Peace Treaty	People's Republic of China	
American Occupation	1952	Okinawa was placed under U.S. Administration by the San Francisco Peace Treaty	1953 Amami Islands were returned to Japan		
	1956	The Price Report was announced and All Island Struggle occurred	1956 Japanese-Soviet Joint Declaration		
	1959	U.S. military aircraft crashed into Miyamori Elementary School in Ishikawa City	1964 Tokyo Olympics		
	1960	Formation of the Association for the Return of Okinawa	1968 Ogasawara Islands were returned to Japan		
	1968	The first representative election was held	1970 Japan World Exposition		
	1969	Joint statement between Sato and Nixon. Return of Okinawa was announced.	1973 Oil Shock		
	1971	General Strike to oppose the Okinawa Restoration Convention	1976 Lockheed Bribery Scandal		
	1972	Okinawa "reverted" to Japan	1985 Japan Airlines Flight 123 Incident		
	1973	Special National Athletic Meeting, "Wakanatsu Kokutai" was held			
	1975	Okinawa Expo '75 was held			
Okinawa Prefecture	1978	Traffic lane was changed to left from right			
	1987	42nd National Sports Festival of Japan, "Kaiho Kokutai" was held			
	1992	Shuri Castle Main Hall restored and Shurijo Castle Park opened			
	1993	Nationwide Tree Planting Festival was held in Itoman City			
	1993	Gusuku Sites and Related Properties of the Kingdom of Ryukyu registered as Unesco World Heritage Sites			
	2000	Kyushu-Okinawa Summit			
			Heisei Period		

Prepared based on "Museum Exhibition Guidance", Okinawa Prefectural Museum & Art Museum 2006



## Introduction to the History of Okinawa

The old name for Okinawa was Ryukyu. When the Kingdom of Ryukyu ended and Okinawa Prefecture was established in 1879, the name of the region changed from Ryukyu to Okinawa.

According to current research, humans inhabited Okinawa from several thousand years ago, so the islands have an ancient history. This long history can be divided roughly into five stages.

The first stage known as the “Prehistoric Period” was a long period from thousands of years ago to around the 12th century. During this time, the foundations of Okinawa were formed with influences from the surrounding Asian region.

In the second stage known as the “Old Ryukyu”, political unification got underway centered on Okinawa Island, and 1429 saw the start of the age of a nation state, the Kingdom of Ryukyu.

However in 1609, the kingdom was brought under the authority of the Japanese shogun through the military action of the Satsuma clan, ushering in the third stage “Early Modern Ryukyu”.

In the fourth stage, Japan began its transformation from a feudal state to a modern nation. In 1879, the Kingdom of Ryukyu was abolished and the region became Okinawa Prefecture, marking the start of “Modern Okinawa”.

During World War II, Okinawa was the site of heavy land battles (the Battle of Okinawa). With Japan’s defeat, Okinawa was separated from Japanese society and placed under direct American administration. However, the wishes of the people made Okinawa Prefecture returned to Japan, where it remains to this day.

Generally termed “Postwar Okinawa” covering the postwar American administration and the period after the return of Okinawa to Japan, the circumstances and significance of this fifth stage is currently the subject of research.

As we can see, Okinawa is a region with a history characterized by gradual alignment with Japanese society. This is a situation without precedent in other parts of Japan, and it represents a distinguishing feature of Okinawa as a region.

Reference:

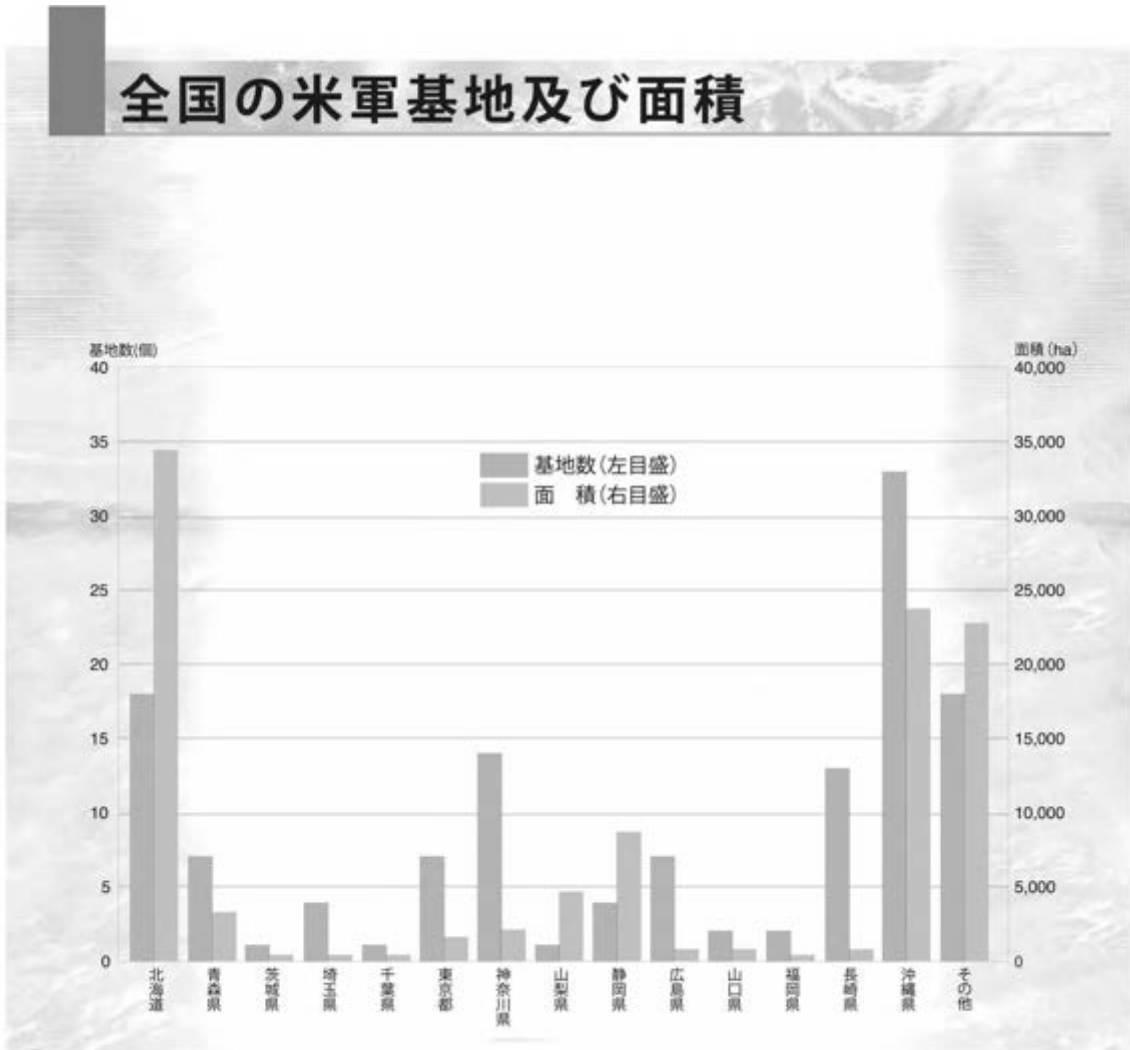
Okinawa Prefectural Board of Education, *Introduction to Okinawan History and Culture*

## Introduction to the History of Okinawa

Prehistoric Period	<p>←The age of Yamashita Cave Man 32,000 years ago</p> <p>←The age of Minatogawa Man 18,000 years ago</p> <p>←About 6500 years ago, Okinawa and Amami entered the Jomon cultural sphere</p>	
	Old Ryukyu	<p>←Around the 12th century, political unification of the Okinawan islands began</p>
Early Modern Ryukyu Period	Ryukyu Kingdom Period	<p>←The Ryukyu Kingdom was established in 1429</p> <p>←Around this time, Okinawa engaged in active exchanges with China and Southeast Asia</p> <p>←In 1609, the Satsuma forces invaded Ryukyu</p> <p>←The structure of the Ryukyuan Kingdom was maintained under the shogunate system</p> <p>←Ryukyuan culture and performing arts flourished</p>
Modern Okinawa	Okinawa Prefecture	<p>←Okinawa Prefecture was established in 1879</p> <p>←Around this time, emigration overseas was activated</p> <p>← Combat between Japanese and American forces in Okinawa in 1945</p>
Postwar Okinawa	American Occupation	<p>←Around this time, huge American military bases were constructed</p>
	Okinawa Prefecture	<p>←Okinawa was returned to Japan in 1972</p>



Main Forum: Display Materials from Kanagawa Prefecture



■ 全国の米軍基地数：132

■ 米軍基地面積：102,709ha（東京 23 区の 1.6 倍の面積）

（平成 25 年 1 月 1 日現在）

平成 25 年 7 月  
渉外関係主要都道府県知事連絡協議会  
（略称：渉外知事会）

## 渉外知事会都道県における米軍基地の現況

- 青色の都道県は、渉外知事会の会員です。
- 4ページから全国の米軍施設・区域一覧を掲載しています。

**山口県**  
米軍兵隊の管理する岩国飛行場が所在。



**福岡県**  
米軍提供施設として、板付飛行場の倉庫(写真)、背振通信施設が所在。



**広島県**  
弾薬庫、岩国飛行場ヘリポートなど8つの基地が所在。



**長崎県**  
燃料・弾薬貯蔵庫など兵站支援を主な任務とする米軍佐世保基地が所在。



**沖縄県**  
市街地の中心部にある普天間飛行場をはじめとする米軍基地は、県土面積の約10%を占めている。



**静岡県**  
米軍専用基地は、富士宮舎地区(キャンプ富士)、沼津皆平訓練場など3施設が所在。





平成25年7月  
渉外関係主要都道府県知事連絡協議会  
(略称：渉外知事会)

## 全国の米軍施設・区域一覧①

(防衛省資料をもとに作成)

(平成25年1月1日現在、面積：千㎡)

施設・区域名	用途	所在地	土地面積	備考
名寄演習場	演習場	北海道 名寄市	1,734	全部 2-4-(b)
旭川近文台演習場	演習場	北海道 旭川市	1,409	全部 2-4-(b)
滝川演習場	演習場	北海道 滝川市 ほか	1,367	全部 2-4-(b)
キャンプ千歳	通信	北海道 千歳市	4,274	
東千歳駐屯地	演習場	北海道 千歳市	81	全部 2-4-(b)
千歳飛行場	飛行場	北海道 千歳市 ほか	2,584	全部 2-4-(b)
北海道・千歳演習場	演習場	北海道 恵庭市 ほか	92,288	全部 2-4-(b)
札幌駐屯地	演習場	北海道 札幌市	8	全部 2-4-(b)
丘珠駐屯地	厚生施設	北海道 札幌市	2	全部 2-4-(b)
上富良野中演習場	演習場	北海道 空知郡上富良野町 ほか	34,688	全部 2-4-(b)
別海矢臼別大演習場	演習場	北海道 野付郡別海町 ほか	168,178	全部 2-4-(b)
釧路駐屯地	兵舎	北海道 釧路郡釧路町	26	全部 2-4-(b)
鹿追駐屯地	演習場	北海道 河東郡鹿追町	59	全部 2-4-(b)
鹿追然別中演習場	演習場	北海道 河東郡鹿追町	32,832	全部 2-4-(b)
帯広駐屯地	演習場	北海道 帯広市	757	全部 2-4-(b)
美幌訓練場	演習場	北海道 網走郡美幌町	2,269	全部 2-4-(b)
倶知安高嶺演習場	演習場	北海道 虻田郡倶知安町	928	全部 2-4-(b)
遠軽演習場	演習場	北海道 紋別郡遠軽町	1,082	全部 2-4-(b)
三沢飛行場	飛行場	青森県 三沢市 ほか	15,968	一部 2-4-(b)
三沢対地射撃場	演習場	青森県 三沢市 ほか	7,655	
八戸貯油施設	倉庫	青森県 八戸市 ほか	173	一部 2-4-(b)
八戸駐屯地	兵舎	青森県 八戸市	53	全部 2-4-(b)
青森小谷演習場	演習場	青森県 青森市	3,183	全部 2-4-(b)
弘前演習場	演習場	青森県 中津軽郡西目屋村 ほか	4,904	全部 2-4-(b)
車力通信所	通信	青森県 つがる市	135	一部 2-4-(b)
岩手岩手山中演習場	演習場	岩手県 岩手郡滝沢村 ほか	23,264	全部 2-4-(b)
仙台駐屯地	演習場	宮城県 仙台市	51	全部 2-4-(b)
霞の目飛行場	飛行場	宮城県 仙台市 ほか	260	全部 2-4-(b)
大和王城寺原大演習場	演習場	宮城県 加美郡色麻町 ほか	45,377	全部 2-4-(b)
神町大高根演習場	演習場	山形県 村山市 ほか	1,308	全部 2-4-(b)
百里飛行場	飛行場	茨城県 小美玉市 ほか	1,078	全部 2-4-(b)
相馬原演習場	演習場	群馬県 高崎市 ほか	5,796	全部 2-4-(b)
キャンプ朝霞	兵舎	埼玉県 和光市	118	
所沢通信施設	通信	埼玉県 所沢市	966	
大和田通信所	通信	埼玉県 新座市 ほか	1,196	

平成25年7月

渉外関係主要都道府県知事連絡協議会

(略称：渉外知事会)

## 全国の米軍施設・区域一覧②

(防衛省資料をもとに作成)

施設・区域名	用途	所在地	土地面積	備考
朝霞駐屯地	演習場	埼玉県 朝霞市 ほか	17	全部 2-4-(b)
木更津飛行場	飛行場	千葉県 木更津市	2,095	
赤坂プレス・センター	事務所	東京都 港区	27	
ニューサンノー米軍センター	厚生施設	東京都 港区	7	
横田飛行場	飛行場	東京都 福生市 ほか	7,139	一部 2-4-(b)
府中通信施設	通信	東京都 府中市	17	一部 2-4-(b)
多摩サービス補助施設	厚生施設	東京都 稲城市 ほか	1,957	
由木通信所	通信	東京都 八王子市	4	
硫黄島通信所	通信	東京都 小笠原村	6,631	一部 2-4-(b)
根岸住宅地区	住宅	神奈川県 横浜市	429	
横浜ノース・ドック	港湾	神奈川県 横浜市	524	
上瀬谷通信施設	通信	神奈川県 横浜市	2,422	
深谷通信所	通信	神奈川県 横浜市	774	
鶴見貯油施設	倉庫	神奈川県 横浜市	184	
キャンプ座間	事務所	神奈川県 相模原市 ほか	2,346	
相模総合補給廠	工場	神奈川県 相模原市	2,144	
相模原住宅地区	住宅	神奈川県 相模原市	593	
厚木海軍飛行場	飛行場	神奈川県 綾瀬市 ほか	5,069	一部 2-4-(b)
池子住宅地区及び海軍補助施設	住宅	神奈川県 逗子市 ほか	2,884	
吾妻倉庫地区	倉庫	神奈川県 横須賀市	815	
横須賀海軍施設	港湾	神奈川県 横須賀市	2,363	一部 2-4-(b)
長坂小銃射撃場	演習場	神奈川県 横須賀市	97	全部 2-4-(b)
浦郷倉庫地区	倉庫	神奈川県 横須賀市	194	
高田関山演習場	演習場	新潟県 妙高市 ほか	14,080	全部 2-4-(b)
小松飛行場	飛行場	石川県 小松市 ほか	1,606	全部 2-4-(b)
岐阜飛行場	厚生施設	岐阜県 各務原市	1,626	全部 2-4-(b)
富士営舎地区	兵舎	静岡県 御殿場市	1,177	
富士演習場	演習場	静岡県 御殿場市 ほか	133,910	全部 2-4-(b)
(内数) 北富士演習場	演習場	山梨県 富士吉田市 ほか	45,968	全部 2-4-(b)
(内数) 北富士演習場	演習場	静岡県 御殿場市 ほか	87,942	全部 2-4-(b)
滝ヶ原駐屯地	演習場	静岡県 御殿場市	7	全部 2-4-(b)
沼津海浜訓練場	演習場	静岡県 沼津市	28	
今津饗庭野中演習場	演習場	滋賀県 高島市	24,090	全部 2-4-(b)
伊丹駐屯地	演習場	兵庫県 川西市 ほか	20	全部 2-4-(b)
美保飛行場	飛行場	鳥取県 境港市	778	全部 2-4-(b)

平成 25 年 7 月  
渉外関係主要都道府県知事連絡協議会  
(略称：渉外知事会)



## 全国の米軍施設・区域一覧③

(防衛省資料をもとに作成)

施設・区域名	用途	所在地	土地面積	備考
日本原中演習場	演習場	岡山県 勝田郡奈義町 ほか	18,803	全部 2-4-(b)
秋月弾薬庫	倉庫	広島県 江田島市	559	
第一術科学校訓練施設	演習場	広島県 江田島市	建物のみ	全部 2-4-(b)
川上弾薬庫	倉庫	広島県 東広島市	2,604	
原村演習場	演習場	広島県 東広島市	1,689	全部 2-4-(b)
広弾薬庫	倉庫	広島県 呉市	359	
呉第六突堤	港湾	広島県 呉市	14	
灰ヶ峰通信施設	通信	広島県 呉市	1	
岩国飛行場	飛行場	山口県 岩国市 ほか	7,891	
祖生通信所	通信	山口県 岩国市	24	
板付飛行場	飛行場	福岡県 福岡市	508	一部 2-4-(b)
築城飛行場	飛行場	福岡県 行橋市 ほか	906	全部 2-4-(b)
背振山通信施設	通信	佐賀県 神埼市 ほか	41	
佐世保海軍施設	港湾	長崎県 佐世保市	496	一部 2-4-(b)
佐世保ドライ・ドック地区	港湾	長崎県 佐世保市	83	一部 2-4-(b)
赤崎貯油所	倉庫	長崎県 佐世保市	754	
佐世保弾薬補給所	倉庫	長崎県 佐世保市	582	
庵崎貯油所	倉庫	長崎県 佐世保市	227	
針尾島弾薬集積所	倉庫	長崎県 佐世保市	1,297	
立神港区	港湾	長崎県 佐世保市	135	
崎辺小銃射撃場	演習場	長崎県 佐世保市	建物のみ	全部 2-4-(b)
崎辺海軍補助施設	倉庫	長崎県 佐世保市	129	
針尾住宅地区	住宅	長崎県 佐世保市	354	
大村飛行場	厚生施設	長崎県 大村市	建物のみ	全部 2-4-(b)
横瀬貯油所	倉庫	長崎県 西海市	618	
対馬通信所	通信	長崎県 対馬市	5	
大矢野原・霧島演習場	演習場	熊本県 上益城郡山都町 ほか	26,965	全部 2-4-(b)
北熊本駐屯地	演習場	熊本県 熊本市	21	全部 2-4-(b)
健軍駐屯地	演習場	熊本県 熊本市	39	全部 2-4-(b)
日出生台・十文字原演習場	演習場	大分県 玖珠郡玖珠町 ほか	56,317	全部 2-4-(b)
(内数) 日出生台演習場	演習場	大分県 玖珠郡玖珠町 ほか	49,822	全部 2-4-(b)
(内数) 十文字原演習場	演習場	大分県 別府市 ほか	6,495	全部 2-4-(b)
新田原飛行場	飛行場	宮崎県 児湯郡新富町 ほか	1,833	全部 2-4-(b)
北部訓練場	演習場	沖縄県 国頭郡国頭村 ほか	78,242	一部 2-4-(b)
奥間レスト・センター	厚生施設	沖縄県 国頭郡国頭村	546	

平成 25 年 7 月  
渉外関係主要都道府県知事連絡協議会  
(略称：渉外知事会)

## 全国の米軍施設・区域一覧④

(防衛省資料をもとに作成)

○青色は、渉外知事会構成 14 都道県。

施設・区域名	用途	所在地	土地面積	備考
慶佐次通信所	通信	沖縄県 国頭郡東村	10	
伊江島補助飛行場	演習場	沖縄県 国頭郡伊江村	8,016	
八重岳通信所	通信	沖縄県 名護市 ほか	37	
キャンプ・ハンセン	演習場	沖縄県 国頭郡金武町 ほか	51,099	一部 2-4-(b)
金武レッド・ビーチ訓練場	演習場	沖縄県 国頭郡金武町	14	
金武ブルー・ビーチ訓練場プル	演習場	沖縄県 国頭郡金武町	381	
キャンプ・シュワブ	演習場	沖縄県 名護市 ほか	20,626	
辺野古弾薬庫	倉庫	沖縄県 名護市	1,214	
嘉手納弾薬庫地区	倉庫	沖縄県 中頭郡読谷村 ほか	26,585	
トリイ通信施設	通信	沖縄県 中頭郡読谷村	1,934	
嘉手納飛行場	飛行場	沖縄県 中頭郡嘉手納町 ほか	19,855	一部 2-4-(b)
キャンプ桑江	医療	沖縄県 中頭郡北谷町	675	
キャンプ瑞慶覧	兵舎	沖縄県 中頭郡北谷町 ほか	5,957	
ホワイト・ビーチ地区	港湾	沖縄県 うるま市	1,568	
浮原島訓練場	演習場	沖縄県 うるま市	254	全部 2-4-(b)
津堅島訓練場	演習場	沖縄県 うるま市	16	
天願棧橋	港湾	沖縄県 うるま市	31	
キャンプ・コートニー	兵舎	沖縄県 うるま市	1,339	
キャンプ・マクトリアス	兵舎	沖縄県 うるま市	379	
陸軍貯油施設	倉庫	沖縄県 うるま市 ほか	1,277	
キャンプ・シールズ	兵舎	沖縄県 沖縄市	700	
泡瀬通信施設	通信	沖縄県 沖縄市	552	
普天間飛行場	飛行場	沖縄県 宜野湾市	4,806	
牧港補給地区	倉庫	沖縄県 浦添市	2,737	
那覇港湾施設	港湾	沖縄県 那覇市	559	
鳥島射撃場	演習場	沖縄県 島尻郡久米島町	41	一部 2-4-(b)
久米島射撃場	演習場	沖縄県 島尻郡久米島町	2	
出砂島射撃場	演習場	沖縄県 島尻郡渡名喜村	245	
黄尾嶼射撃場	演習場	沖縄県 石垣市	874	
赤尾嶼射撃場	演習場	沖縄県 石垣市	41	
沖大東島射撃場	演習場	沖縄県 島尻郡北大東村	1,147	
全国計 132施設			1,027,092	

(注) ○「2-4-(b)」は地位協定第2条4項b 適用施設・区域を示し、米軍が一定の期間を使用しているもの。  
○基地によっては都道府県をまたがっているものがある。  
○単位未満を四捨五入したので、計と符号しないことがある。

平成 25 年 7 月  
渉外関係主要都道県知事連絡協議会  
(略称：渉外知事会)

Okinawa Asia-Pacific Partnership Forum  
“Creating Perspectives on Security with Regional Partners”  
Forum Photos



Displays at Main Forum Entrance



Main Forum Venue



Session 1



Session 2



Session 3



Press Conference

V. Appendix: 3<sup>rd</sup> Okinawa Asia-Pacific Partnership Forum  
Other Related Materials

---



Reception



Reception



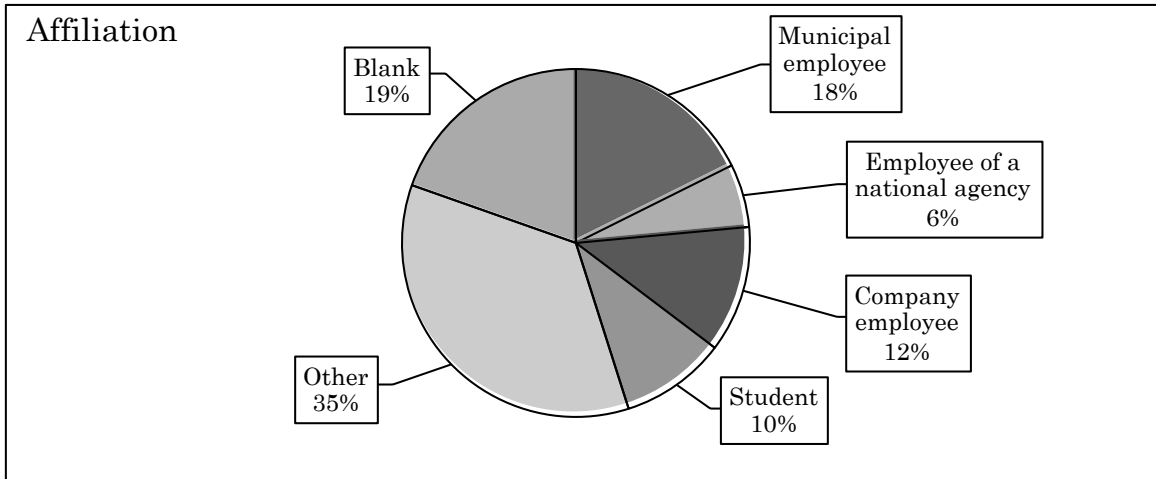
Youth Forum



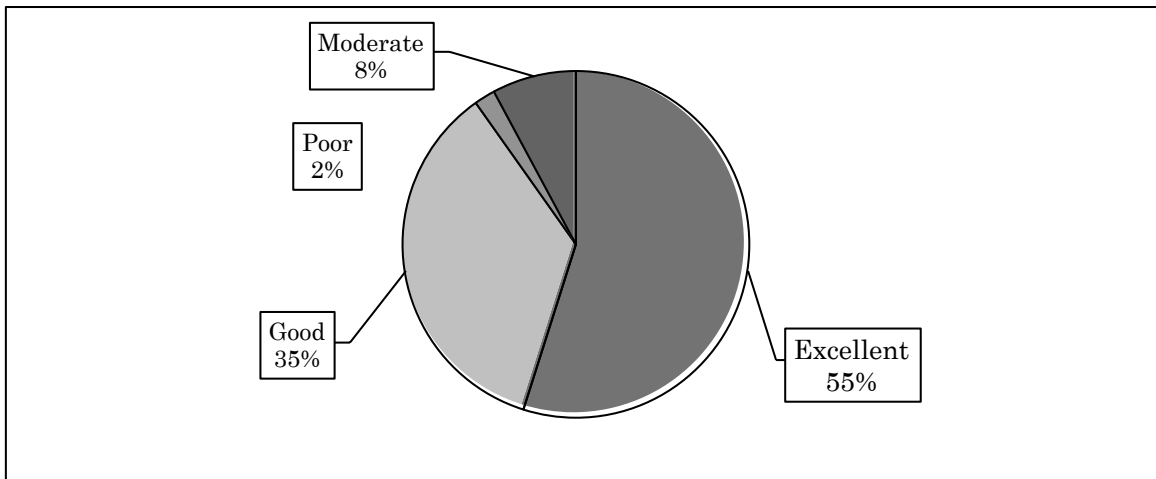
Youth Forum Workshop

Okinawa Asia-Pacific Partnership Forum  
“Creating Perspectives on Security with Regional Partners”  
Questionnaire Results

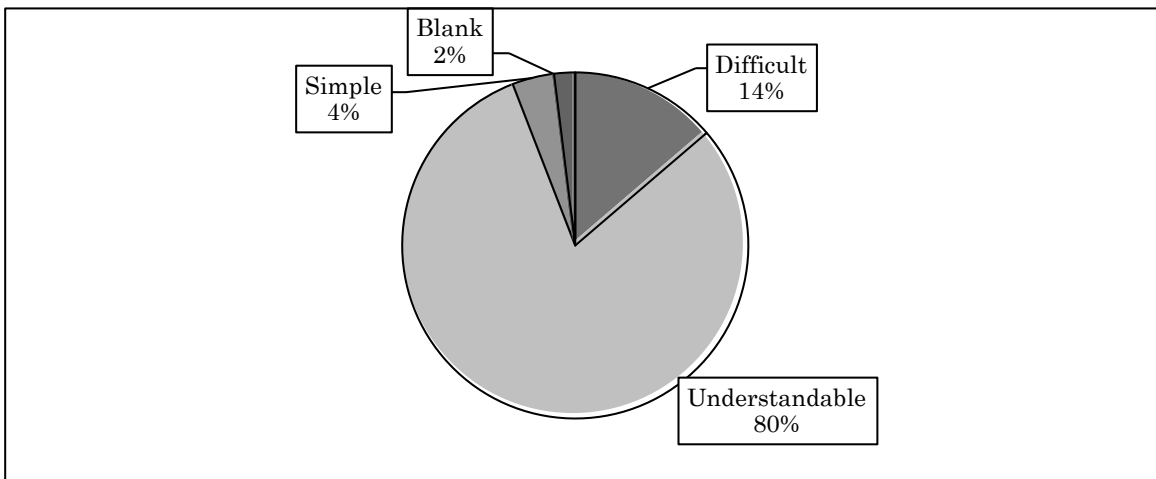
Main Forum: 266 Participants \*Tallied at sign-in desk



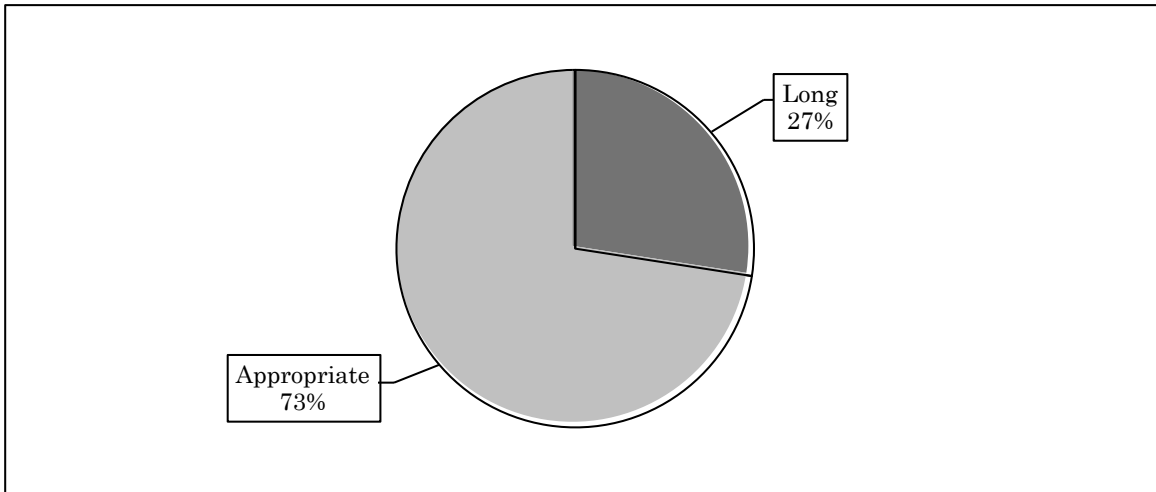
1. Overall impression



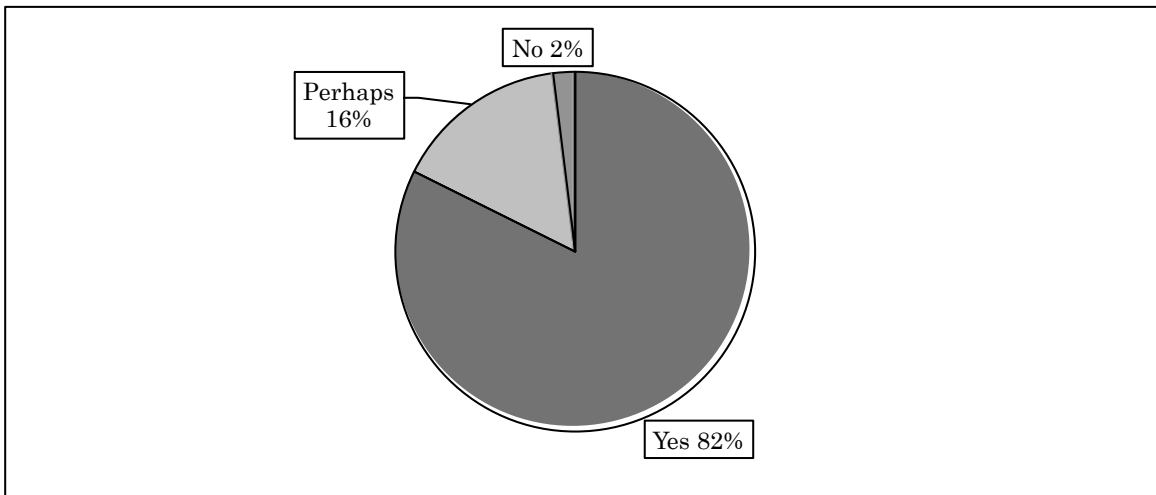
2. Content level



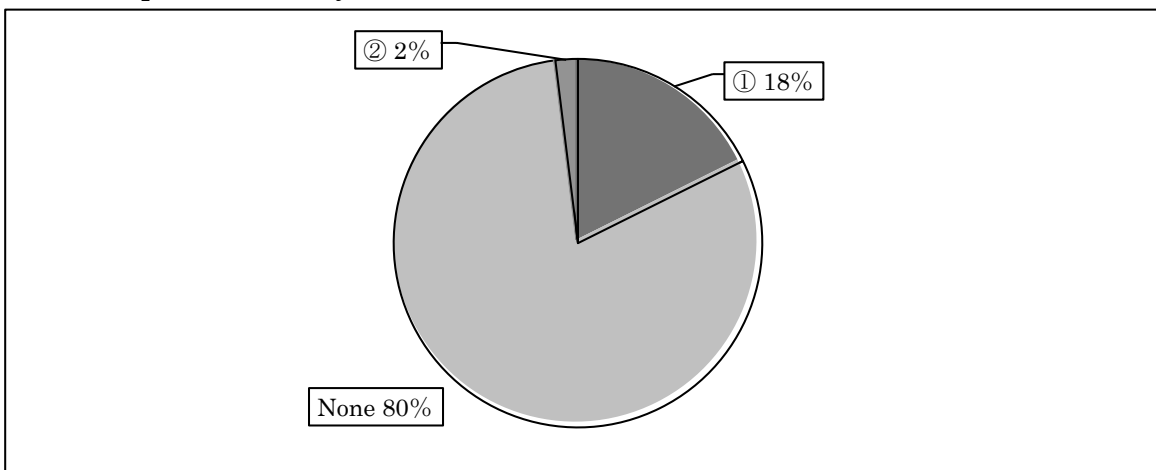
### 3. Time



### 4. Participation in future



### 5. Participated in last year's forum

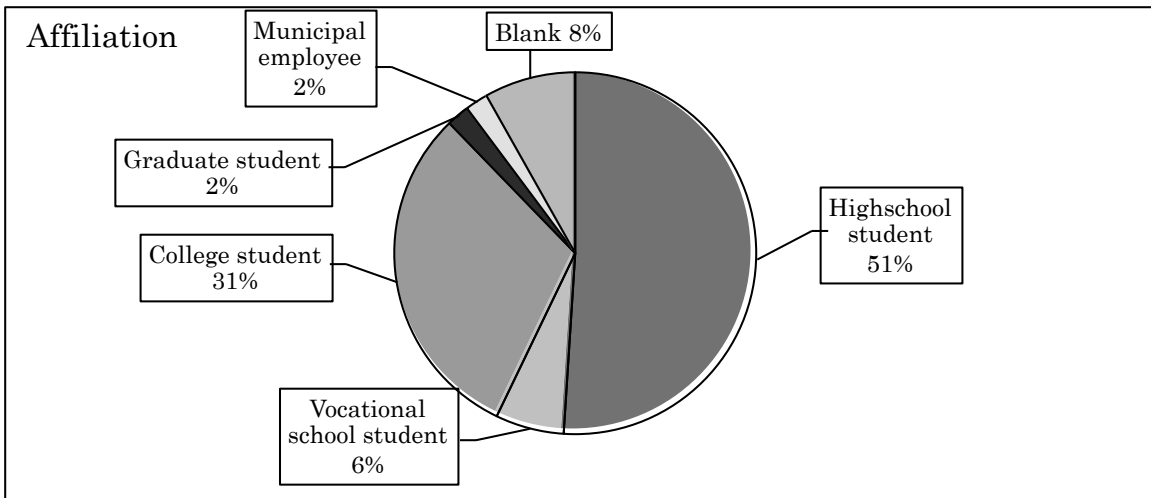


\*① Attended “Peace and Security in East Asia” on Oct. 11

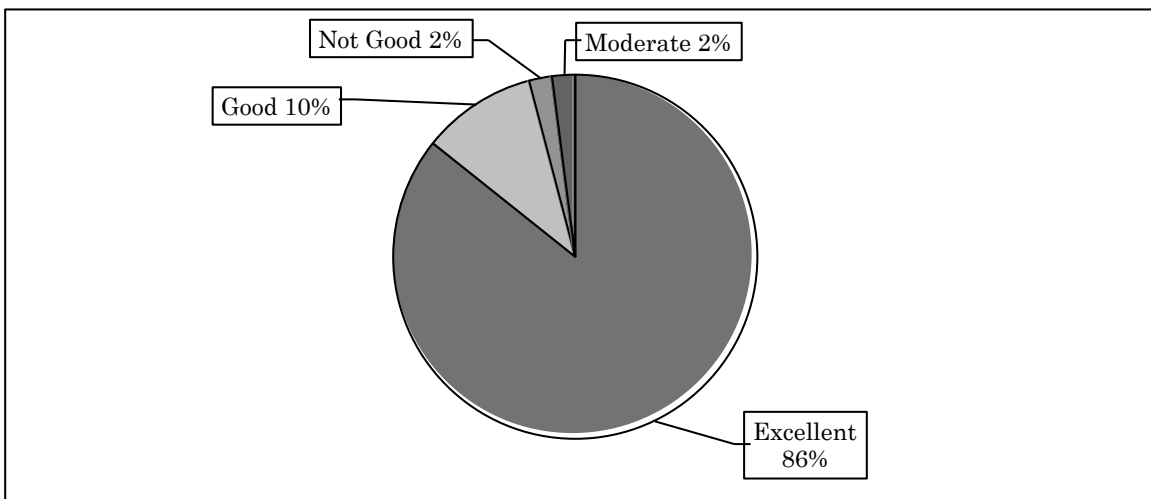
② Attended both “Peace and Security in East Asia” on Oct. 11 and

“Crisis Management and Regional Cooperation in Island Territories” on Aug. 29

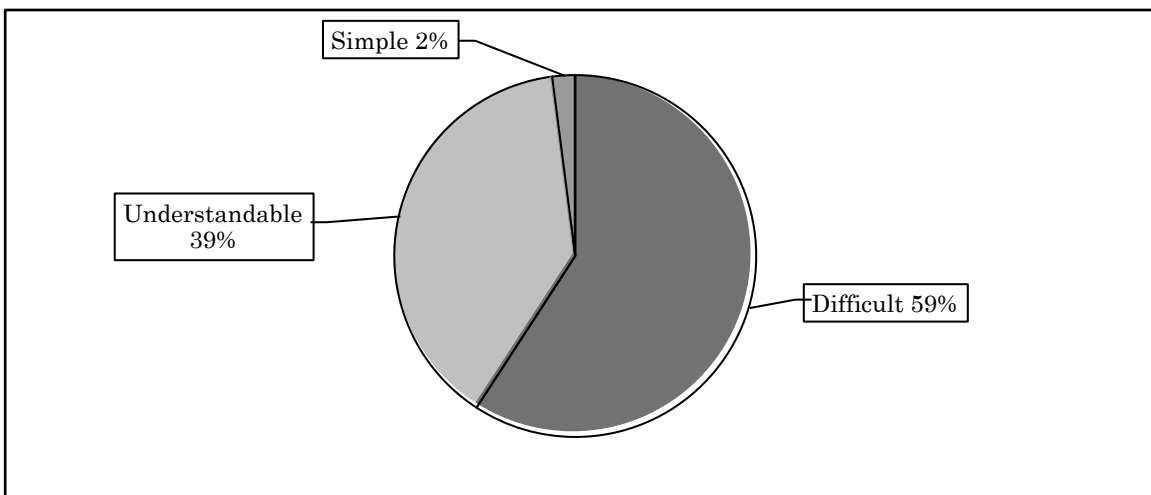
Youth Forum: 69 Participants \*Tallied at sign-in desk



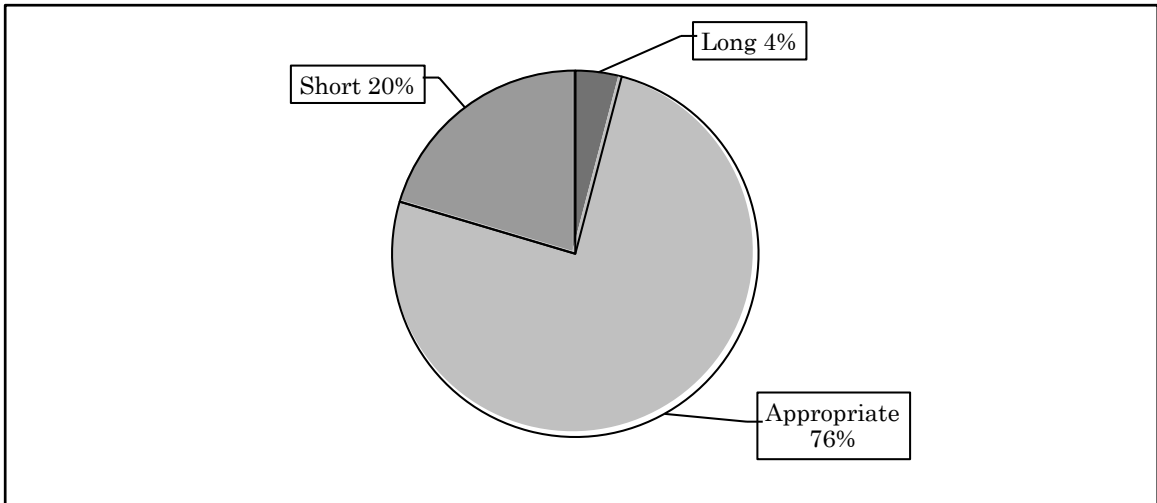
1. Overall impression



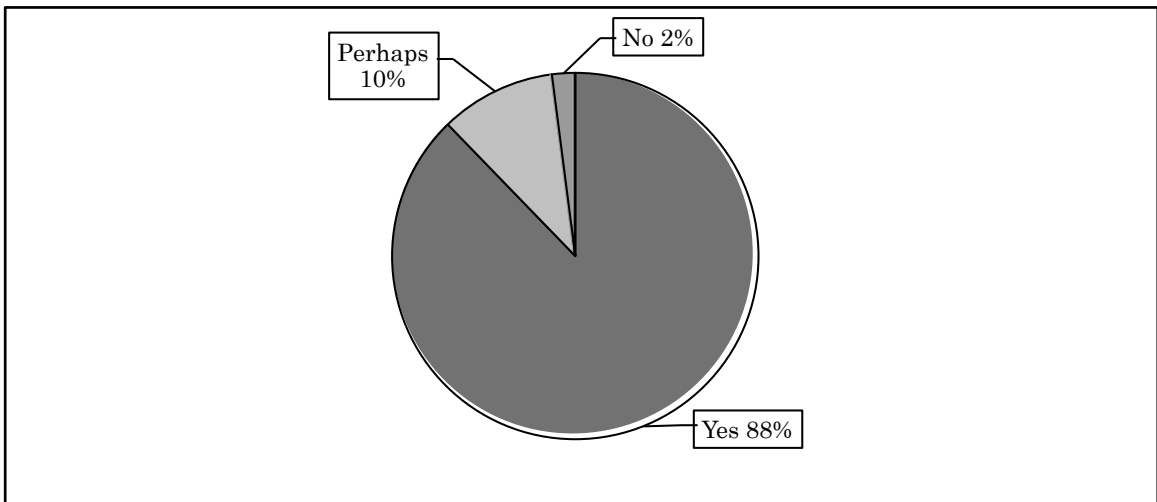
2. Content



### 3. Time



### 4. Participation in future





# 地域安全保障シンポジウム

## 平成 26 年度共同研究発表会



日時：  
平成 27 年 3 月 17 日(火)  
14:00～17:00

会場：  
沖縄県市町村自治会館  
4 階 中会議場  
(那覇市旭町 116-37)

参加費： 無 料

セッション 1 14:05～15:15

### 沖縄の海兵隊をめぐる 米国の政治過程

- ・川名晋史 近畿大学法学部講師
- ・齊藤孝祐 横浜国立大学研究推進機構  
特任講師
- ・清水文枝 明治大学大学院博士後期課程
- ・波照間陽 沖縄県知事公室  
地域安全政策課研究員

セッション 2 15:35～16:25

### 沖縄県の受援力強化に向けた 「自助・共助・公助」の 強化に関する研究

- ・定池祐季 東京大学総合防災情報研究  
センター特任助教
- ・本多倫彬 慶應義塾大学 SFC 研究所  
上席所員

セッション 3 16:25～16:55

### 国境をまたいだ地域協力の 在り方についての 比較研究

- ・中林啓修 沖縄県知事公室  
地域安全政策課主任研究員

※発表時間及び報告者は都合により変更する場合があります。  
※各セッションでは質疑応答を実施します。

シンポジウム運営事務局(オフィスアイシーシー)  
電話:098-943-5370 FAX:098-943-5371  
メール:okikyodokenkyu@wing.ocn.ne.jp  
沖縄県 知事公室 地域安全政策課

Regional Security Symposium 2014 Joint Research Presentation Program

地域安全保障シンポジウム 平成 26 年度共同研究発表会

【プログラム】

14 : 00 開会挨拶

14 : 05～15 : 15

**セッション1** 沖縄の海兵隊をめぐる米国の政治過程

セッション1の全体説明

① 沖海兵隊の撤退圧力とその反作用

－本土基地再編プロセスとの接続性－

川名 晋史

② 比米軍基地の戦略的位置づけ

－カーター政権の対アジア戦略についての一整理－

清水 文枝

③ 1996年普天間飛行場返還合意までの米国内の議論

－在沖海兵隊に関する政府外の議論に注目して－

波照間 陽

④ 2000年代の普天間飛行場移設問題と在沖海兵隊のグアム移転

－「切り離し」に至る米国の政策論理－

齊藤 孝祐

質疑応答

15 : 15～15 : 35 休憩

15 : 35～16 : 25

**セッション2**

沖縄県の受援力強化に向けた「自助・共助・公助」の強化に関する研究

セッション2の全体説明

① 沖縄における津波災害文化の継承に関する研究

定池 祐季

② 沖縄の防災におけるレジリエンスと公助

－大規模災害時の緊急援助と復興に備えて－

本多 倫彬

質疑応答

16 : 25～16 : 55

**セッション3** 国境をまたいだ地域協力の在り方についての比較研究

セッション3の全体説明

① 防災分野での地域協力の研究

－EU市民保護からのインプリケーション－

中林 啓修

質疑応答

16 : 55 閉会挨拶

(敬称略)

Regional Security Symposium 2014 Joint Research Presentation  
Symposium Photos



Symposium sign-in counter



Symposium Venue



Session 1



Session 2



Session 3



Presenters



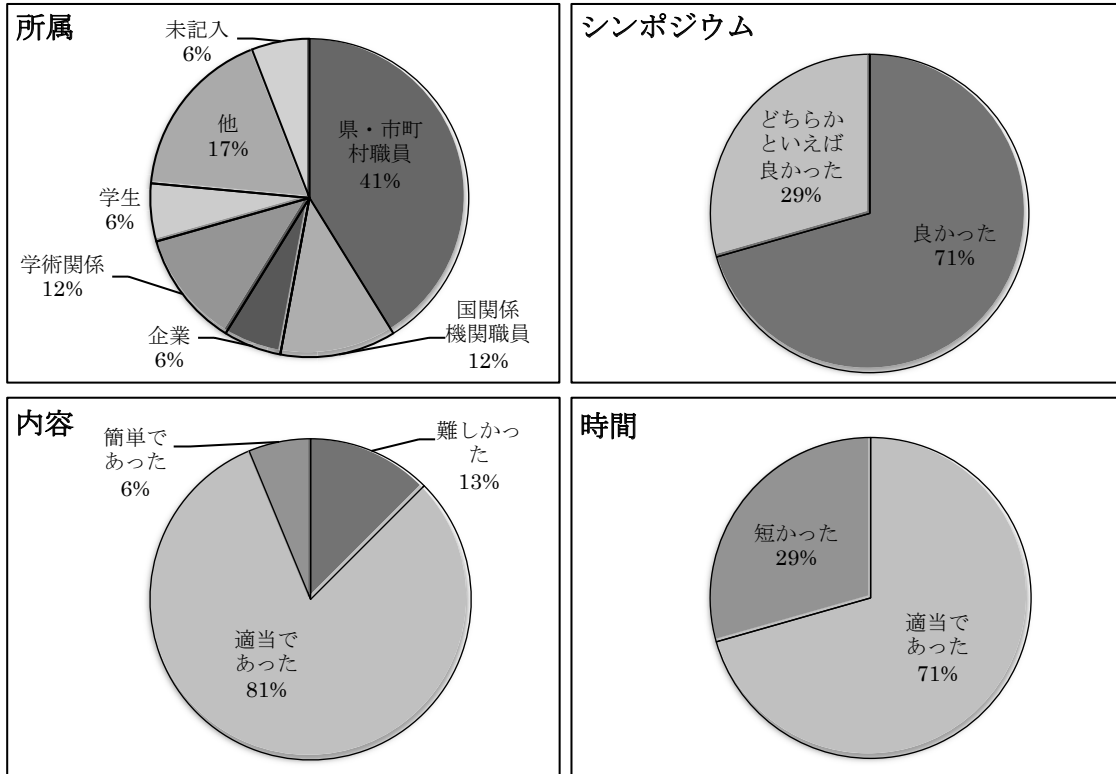
Question and Answer Session



Presenters and Secretariats

Regional Security Symposium 2014 Joint Research Presentation  
Symposium Questionnaire Result

アンケート結果



【ご意見・ご感想】

- ・ テーマを深く掘り下げ、多面的・多様な視点から「人間の安全保障」はどうあるべきか、今後の研究に期待したい。
- ・ 冷静な研究内容は役に立った。是非、このような客観的な立場でのシンポジウムをもっと広く公開してほしい。
- ・ もっと大学関係者（学生含む）や政策関係者（議員含む）にも参加して欲しい。
- ・ パネリストの意見交換や論戦の場をみたい。
- ・ テーマの関連性をはっきりした方が、全体的にまとまるのではないかな。
- ・ 一時間弱の時間で4名の発表者の発表は時間が短いと思う。

【今後に期待するテーマ】

- ・ 国家安全保障と人間の安全保障のジレンマは沖縄の今日のテーマであり、基地のあり方（負担）を相互補完した研究が今問われている。
- ・ 防災は具体的に県や市町村の取り組みも含めた内容があるといい。
- ・ 中国の海外政策から見た在沖米軍基地と日米安保
- ・ 海兵隊に限らないアメリカの、沖縄政策形成過程の分析
- ・ 沖縄におけるナショナリズム・自己決定権
- ・ 東アジア、東南アジアの安全保障環境

---

Special Seminar Announcement

《庁内勉強会のご案内》

都市防災、災害復興の専門家で、明治大学大学院特任教授の中林一樹氏をお招きし、庁内勉強会を実施しますので、職員の皆様におかれましては、奮ってご参加ください。

＜勉強会の概要＞

平成 26 年 10 月 7 日（火） 10:30～11:50

場所：13 階第 1 会議室

テーマ：「災害復興からまちづくりを考える」

内容：中林教授による講演、及び意見交換

【中林教授プロフィール概要】

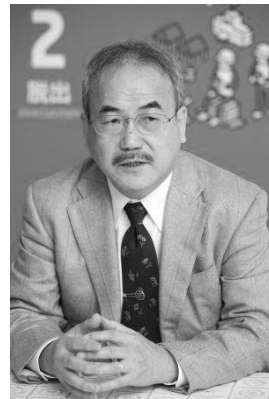
明治大学大学院 政治経済学研究科特任教授、工学博士。  
東京都立大学大学院教授、都市科学研究科長を経て 2011  
年より現職。

中央防災会議「首都直下地震避難対策等専門調査会」

座長、東京都防災会議地震部専門員なども歴任。

東京都を始め自治体と連携した実践的研究を多数実施。

沖縄県では地域安全政策課における共同研究（沖縄県の  
受援力強化に向けた「自助・共助・公助」の強化に関する  
研究）に協力頂いております。



---

Special Seminar Announcement

《庁内勉強会のご案内》

国際関係、国際政治、地域統合論の専門家で、青山学院大学大学院国際政治経済学科教授の羽場久美子氏をお招きし、庁内勉強会を実施しますので、職員の皆様におかれましては、奮ってご参加ください。

<勉強会の概要>

平成 26 年 11 月 4 日 (火) 10:30~11:50

場所：14 階共用会議室

テーマ：「沖縄を取り巻く国際環境と地域交流の意義」

内容：羽場教授による講演、及び意見交換

【羽場教授プロフィール概要】

青山学院大学大学院国際政治経済学研究科教授、  
ハーバード大学 国際問題研究所 客員研究員  
専門：拡大 EU・NATO、冷戦史、ナショナリズム、  
アジア地域統合と EU, アメリカ

<主な学外活動>

日本学術会議 第一部会員

ジャン・モネ・チェア in EU

世界国際関係学会 元日本代表理事 in the USA

東アジア共同体評議会 副議長

国際アジア共同体学会 副代表

日本政治学会/日本 EU 学会/ロシア・東欧学会/JSSEES 理事

沖縄県においては、共同研究（国境をまたいだ地域協力の在り方についての比較研究）に協力頂いております。





**Regional Security Policy Research Report 2014**  
**—Okinawa in the Asia-Pacific Region—**

Published in March, 2015

Edited by Okinawa Prefectural Government  
Executive Office of the Governor  
Regional Security Policy Division  
Research Section  
1-2-2 Izumizaki, Naha City, Okinawa 900-8570  
TEL: (+81) 98-866-2565

Printed by Printing Ltd.  
878-5 Oroku, Naha City, Okinawa 901-0152  
TEL: (+81) 98-858-7895

\*All contents published in this report are personal opinions of the respective authors, and do not represent an official position of Okinawa Prefectural Government.

\*Please cite source when citing/ quoting from this report. Reprint only with permission.

\*The contents of this report are based on the information at the time of the forums and when the survey studies were conducted.

\*This report includes provisional translation. Please refer to the original text for full accuracy.







# 沖繩県

OKINAWA PREFECTURE

知事公室地域安全政策課 調査・研究班編

